

ぼうさい授業 事前説明資料

2022年度 地域プロジェクト I・II

担当:全学共通教育センター教授 久保はるか



授業「地域プロジェクト」の位置づけ ～実践形式の学習方法～

- 甲南大学地域連携センターでは、実社会での問題発見・解決型の取り組みを通じて、地域に根差した学び[CBL (Community Based Learning, コミュニティ・ベースド・ラーニング)]を習得することに力を入れて取り組んでいます。
- 「問題発見・解決型学習」(Problem-Based Learning)とは、少人数グループによるグループ討議、活動記録の作成、自己学習、成果報告など、統合的・創造的な学習に主眼を置いている実践形式の学習方法です。



授業「地域プロジェクト」の目的 科目における到達目標

- **地域課題**について具体的に学び、対象とする地域での**フィールド調査**を行って、**解決策を提案**し、最終的には、**その成果を関係者に対してプレゼンテーション**し、地域へ提言することを目標とします。
- 以上を通じ、現実社会で起きている問題を正確に捉え、そのために必要な解決策を自ら考え、具体的なデータをもとに、説得力のある解決策を提案(プレゼン)することができる能力を養います。さらに、他者との協働作業やディスカッションを通じて、コラボレーションスキルやコミュニケーションスキルも養い、社会で通用する能力を身につけることも目標とします。



ぼうさい授業とは

- 東京海上日動火災保険(株)、神戸市との連携
 - 学生の学び、企画
 - 魚崎中学校にて「ぼうさい授業」を実施
- ①災害支援、防災の活動について、授業計画の立て方について、基礎知識を自ら学びます。
 - ②中学2年生向けの授業計画を立てます。
 - ③神戸市危機管理室等、関係機関にヒアリング調査をします。
 - ④東京海上日動火災保険(株)や神戸市、魚崎中学校関係者にプレゼンテーションします。
 - ⑤中学生にぼうさい授業を企画・運営します。
 - ⑥活動を振り返り、今後の学びにつなげます。



◆甲南大学と東京海上日動火災保険(株) の関わり

甲南学園の創立者である平生釵三郎は、明治 27 年（ 1894 ）に、東京海上日動の前身である、東京海上保険株式会社に入社します。その後、大阪支店長、ロンドン支店監督、神戸支店長などを歴任したのち、大正 6 年（ 1917 ）に専務取締役役に就任しました。大正 14 年（ 1925 ）に専務取締役役を辞任し、翌 15 年に甲南学園理事長に就任しました。このようなご縁もあり、今回、東京海上日動火災保険(株) との コラボ企画が実現しました。東京海上日動火災保険(株)に興味のある方も是非参加してください。



ぼうさい授業 過去の実績

- 2018年度 ぼうさいの授業
 - 住吉中学校:避難経路や土砂災害警戒区域のハザードマップの作成
 - 魚崎中学校:非常持ち出し袋の中身を考えるグループワークや、土砂災害や高潮の解説、防災マップの作成
- 2019年度 ぼうさいの授業⇒中止・・・
 - 魚崎中学校(ただし、新型コロナウイルス対応のため、授業の実施は見送り)
 - 災害弱者(お年寄り、子ども、外国人)との避難、避難時の共助について考える

東灘区

中学生が災害時に地域で率先して活動できるようにと、甲南大の学生らが28日、同大(東灘区岡本8)で、市立住吉中学校の生徒会役員や学級委員ら約100人と一緒に防災を学ぶ「リーダー研修」を開いた。同大の地域連携センターと大学生が研修を企画した。研修では、佐藤泰弘同センター所長が、住吉・岡本地域の歴史を紹介し、東京海上日動火災保険の杉本真美さんが、地震や津波の仕組みについて解説した。その後、生徒らはグループに分かれ、避難経路や土砂災害警戒区域を示すハザードマップを作成した。六甲山系の麓に位置する同地域は、警戒区域の指定が多く、「近所が警戒区域とは知ら

災害時、助ける側、になろう

甲南大生ら企画 住吉中生ら防災学ぶ

なかった」と驚きの声も。避難時にできることや普段からの備えについての発表もあり、「近所さんと仲良くする」「高齢者や小学生を手助けする」などの意見が出た。

生徒会長の小磯太楊さん(15)は「備えをせずに助けられる側になるのではなく、他人を助けられる存在になるために何ができるか考えたい」。研修を企画した同大3年の中野亜耶さん(20)は「コミュニケーションの一員として地域に関わることが防災につながることを知ってもらいたい」と話していた。

(井上 駿)



ハザードマップを作成する住吉中学の生徒ら＝甲南大

コロナ禍でのぼうさい授業 2020年度・2021年度

2020年度

魚崎中学校

備えの行動に移すための“想像力”を働かせる「ぼうさい授業」:トロッコアドベンチャーとすごろくゲームで楽しみながら学ぶ

※中学校の放送室からオンラインで実施!

東京海上日動火災保険(株)×神戸市×甲南大学～次の世代へと繋ぐ「ぼうさい授業」～ | 甲南大学 地域連携センター (konan-u.ac.jp)

2021年度

魚崎中学校

「一人の犠牲者も出さないために」:自助について学ぶ「魚崎中学校オリジナル防災ハンドブックと地図ワーク」、共助について学ぶ「要配慮者への支援を考える避難所体験ワーク」

※中学校多目的ホールからオンライン&教室でのグループワークのハイブリッド方式!

甲南大学×東京海上日動火災保険(株)×神戸市「『ぼうさい授業』～一人の犠牲者も出さないために～」 | 甲南大学 地域連携センター (konan-u.ac.jp)



今年度 活動内容

- テーマ: 「災害時、中学生ができること」(魚崎中学校二年生)
- 頻度: 基本的に、後期から週1回90分程度のゼミ活動、課題あり
- ゼミの実施: 月曜5限(相談に応じますが調整が必要)、岡本キャンパスにて
- 活動期間: 9月末～3月中旬。3月15日に「ぼうさいの授業」実施
 - 7月初旬(1回): オリエンテーション、事前学習の案内
 - 9月末～11月: 活動の本格始動、学習、調査
 - 東京海上、神戸市によるレクチャー
 - 魚崎町防災福祉コミュニティへのヒアリング
 - 地域防災訓練への参加(11月の日曜日) ← (予定)
 - 11月～12月: 授業の企画立案、中間報告
 - 1月～2月: 授業の企画、プレゼンテーションの準備(試験期間および大学入試期間を除く)



スケジュールの具体的なイメージ (2021年度の場合)

7月1日	オリエンテーション、事前学習課題の説明
10月6日 (水曜5限)	授業の開始。東京海上日動火災保険「ぼうさい授業」とは
10月13日	東京海上日動火災保険(株)によるレクチャー
10月20日	事前課題の資料・文献をもとに、論点整理・議論 ⇒「ぼうさい授業」でどのようなテーマを扱いたいか
10月27日	神戸市危機管理室によるレクチャー
11月10日	各自調べてきたことの発表 ぼうさい授業の方向性(テーマ)決定
11月17日	ぼうさい授業の中身についてのアイデア出し
11月24日	ぼうさい授業の目的(学習の到達目標)・内容の検討
12月1日	ぼうさい授業の具体的なコンテンツの検討
12月初旬	日程を調整して、日中に魚崎町の街歩き。
12月8日	中間報告に向けた準備

12月15日	中間報告(東京海上日動、神戸市):企画案について 中間報告、アドバイスをいただく(ZOOMで実施)
12月22日	ぼうさい授業のコンテンツの検討
1月5日	ぼうさい授業のコンテンツの検討
1月12日	魚崎町防災福祉コミュニティに質問したいこと のとりまとめ
1月19日17~19時	魚崎町防災福祉コミュニティ 役員の方々へのヒアリング
2月10日13~17時 16日10時~	全体ミーティング(班ごとのミーティングも実施) 各班の進捗状況、授業スライドの確認、プレゼン準備
2月16日16~17時	魚崎中学校にて、授業企画について報告(担任の先生方)
2月18日9~12時、 24日9時~	授業の通し練習:内容と手順の確認、修正。話し方など プレゼンの相互チェック。
2月24日13~14時	授業企画について最終報告(東京海上、神戸市)
2月25日9~12時 3月1日9~12時、	最終報告での指摘を受けての修正 授業のリハーサル(練習とチェック)、授業配布資料 の確認。
3月2日9~12時	授業配布資料の確認と印刷。
3月2日14時~	魚崎中学校でのリハーサル
3月3日8時半~12時半	授業本番!魚崎中学校にて。 授業は9:30~12:15



2021年度参加者の声 抜粋

【ぼうさい授業で得られたこと、今後活かせること】

- 今回ぼうさい授業に参加して得られた一番の学びは、挑戦してみることの大切さでした。自分のしたいことがなかなか見つからず悩んでいるところですが、こうして色々なことに足を踏み入れ、挑戦することで新たな気づきや学びを得ることができ、自分自身の中での視野が広がるのだと学びました。
- 防災に関する知識をより一層高めることができました。この活動で得た知識は、自分の私生活において非常に役立つと思います。
- さまざまな学外組織と協力することによって、授業をブラッシュアップしていくことが出来ました。自分の頭で考えるのも大切ですが、多くの人からアドバイスをもらってアイデアをブラッシュアップさせ、自分自身も成長していきたいと思います。
- 誰かに何かを伝えたり教えたりするということは、自分はその人に与える情報の何倍もの知識を身につけている必要があるということ。グループで行う活動は助け合いがとても大切である、ということ。グループでの一つのことを成し遂げることの大変さや、成し遂げた時の達成感をとても感じることができました。
- 分かりやすく教えるために、授業当日に使うスライドの文字やイラストを先生や他のメンバーからアドバイスもらいながら、分かりやすく表現することや、当日はゆっくり、はきはきと分かりやすく伝わるように授業することに何回か工夫を入れて試行錯誤しました。
- 自分自身のぼうさい知識だけでなく、それをわかりやすく伝えるといった継承させるための力を得ることができた。



2021年度参加者の声 抜粋

【自分で頑張ったこと、創意工夫や試行錯誤したこと】

- 頑張ったことは積極的にアイデアや意見を共有したことだ。ぼうさい授業は、一人一人が積極的にアイデアを出していかないと進まないプロジェクトだと感じた。そのため、このグループワーク内で足りない役割は何なのかを常に観察しながら、アイデアを共有することができた。そういった点で自己成長に繋がるワークだった。
- 授業する際に工夫したことがあります。中学生が聞きやすいように、ゆっくりとはきはき喋り、難しい用語は使用せずに、自分が中学生だったらどういった教え方をしてくれると嬉しいかを考えながら授業を行いました。
- 授業当日に使うスライドの文字やイラストを先生や他のメンバーからアドバイスもらいながら、分かりやすく表現することや、当日はゆっくり、はきはきと分かりやすく伝わるように授業することに何回か工夫を入れて試行錯誤しました。
- ワークシートを作成するにあたって、要配慮者の実際の避難所での体験などを沢山調べました。またそれに加え、先生として間違ったことを教えるわけにはいかないと、情報を集めるときはできる限り信頼度の高い情報を選んだり、一つの情報だけでなくいくつもの情報を見比べるようにしました。
- 防災ハンドブックの作成を頑張りました。文書を書くこととは全く違います。どうすれば見やすくなるか、分かりやすくなるか、字の大きさは適切か、配色はどうかなど、様々なことを考えながら作成しました。もちろん、他のメンバーにも協力していただきすごく良いハンドブックが完成したと思います。



第1回 オリエンテーションについて

- 日時:2022年7月4日(月)、6日(水)、7日(木)いずれかの昼休みに実施します。応募の際に、どうしても参加できない曜日があれば記入してください。
- 実施方法:基本対面／ZOOMとの併用も可能
- 応募者多数の際の可否、オリエンテーションの場所について、メール(応募の際に記入したメールアドレス)で連絡するので、必ずメールの確認をするようにしてください。
- 内容:自己紹介、今後の進め方、事前学習の参考資料の案内など



履修上の注意(1)

履修登録と単位取得

- 本プロジェクトは、みなさんの挑戦や実績を「可視化(見える化)」する一環として、各プロジェクトの参加実績をもとに、キャリア創生共通科目「地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」(旧名「地域を知るⅠ・Ⅱ」)として履修登録をします。履修手続きは地域連携センターが行います。
- 本プロジェクトは、活動期間が2023年3月までなので、履修登録手続きは翌年度の2023年度の9月に、成績登録は2024年3月に行います。4年生については、特別措置として今年度の履修登録を可能としますので、申し出てください。
- キャリア創生共通科目は、卒業単位としての取り扱いが各学部学科で異なります。必ず、履修要項を確認するようにしてください。



履修上の注意(2)

- プロジェクトに応募する際には、下記のプロジェクトの内容や参加条件を十分に理解してください。
- 原則として、各プロジェクトにおける**すべての取り組みに、最後まで参加できること**。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での授業に加えて、zoom等を使ったリアルタイムのオンラインミーティングも併せて実施する可能性があります。そのため、原則として、自宅で自由に**使えるパソコン機器や安定したインターネット環境を準備**してください。
- 授業期間中の**休日**にフィールドワークが実施される場合があります。
- 交通費などの**自己負担**が発生する場合があります。ただし、費用の一部が大学から補助されることもあります。



問い合わせ先

- ◎担当教員:久保はるか(全学共通教育センター教授)
 - eメール:kubosh@konan-u.ac.jp
- ◎事務室:地域連携センター(KOREC)(担当:白井)
 - 12号館1階(法科大学院棟)
 - 電話:078-435-2276
 - eメール:korec@ml.konan-u.ac.jp

